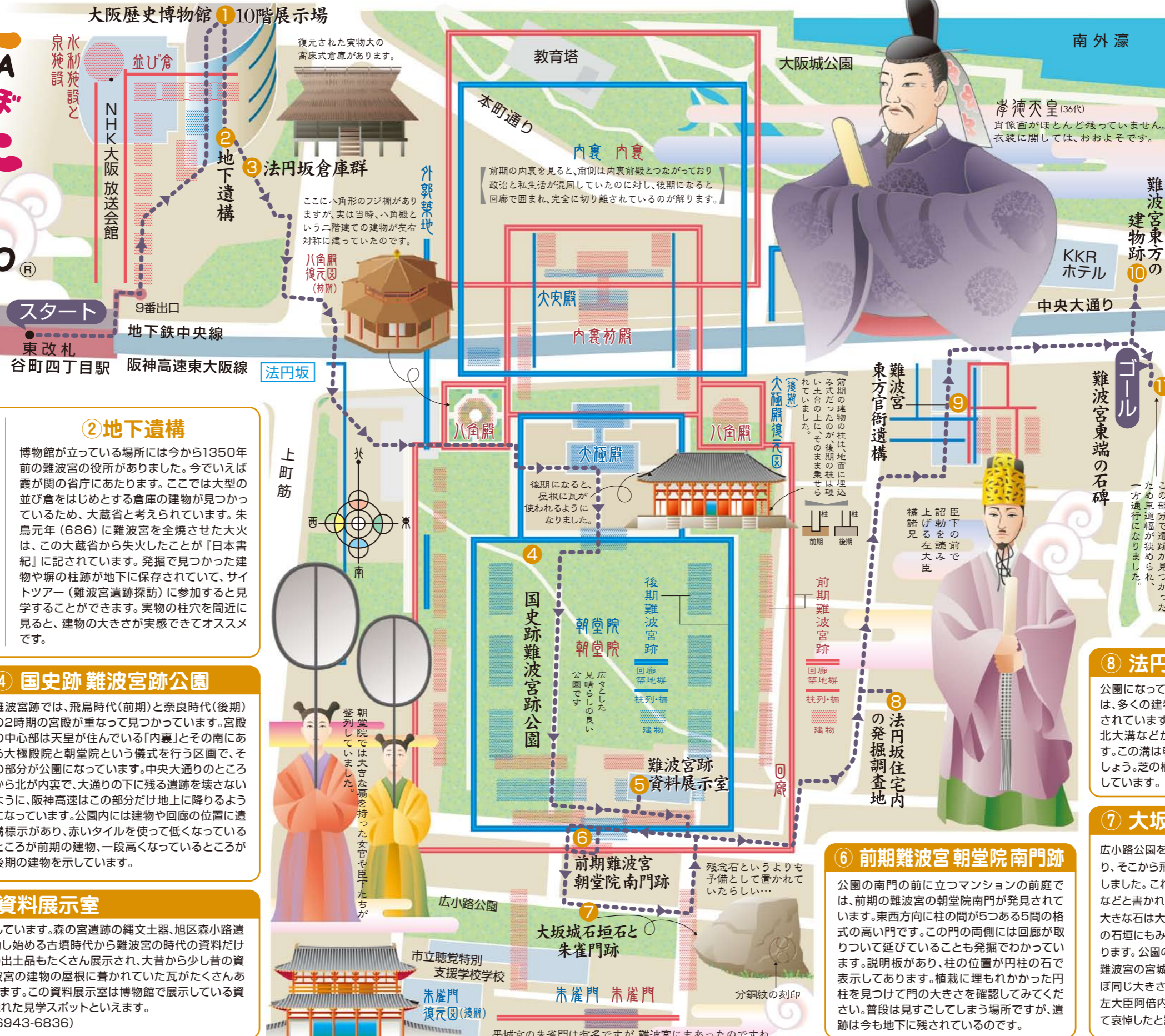


大阪は「まち」がほんまにおもしろい



孝徳帝の夢のあと・難波宮ロマン紀行 ～大阪歴史博物館と難波宮跡公園めぐり～

蘇我入鹿が飛鳥板蓋宮（あすかいたぶきのみや）で暗殺されて蘇我一族が減ると、孝徳天皇は難波宮（難波長柄豊碓宮）を造営して、そこに遷都。公地公民制、租庸調の税制、班田収授法など、「大化の改新（おほのあらたけ）」と呼ばれる革新政治を執り行いました。首都として、また副都として日本の古代史に大きな役割を果たした難波宮の跡地を巡っていきましょう。



11 難波宮東端の石碑

このあたりから東方の森之宮に向かって地形が急に低くなっていきます。そのため難波宮の東端はこの付近と考えられています。石碑があるこの遊歩道の下でも難波宮の柱穴が見つかっています。遺跡が見つかった部分は広い遊歩道にして保存されたため、車道は一方通行の道路になりました。

10 難波宮東方の建物跡 (KKRホテル)

ここでも前期難波宮の時期の建物が見つかっています。住居建物に多い庇をもつ建物なので貴人や役人が暮らしていた建物かもしれません。公園になって保存された建物の柱の位置が円柱のモニュメントで明示されています。こんな離れた場所にも難波宮はしっかり存在をアピールしています。

9 難波宮東方官衙遺構 (アネックス パル法円坂)

この施設を建てる工事も建物跡や回廊跡などが見つかると、市民による保存運動によってそれらを壊さないような構造の建物になりました。東隣のパル法円坂でも所せましと建物が立てられていた様子が明らかになっています。ここでも土地を高くて遺跡が保存され、駐車場の床には柱の位置を示す円形の印があります。言われなければまず気がつかないものですが、ここに確かに難波宮があったことの証です。

8 法円坂住宅内の発掘調査地

公園になっている難波宮の中心部である朝堂院の東側の地域には、多くの建物や塀の跡がたくさん見つかっていて、遺構標示がされています。住宅の建て替え工事に際して後期の難波宮の南北大溝などが発掘されており、その時の成果が説明してあります。この溝は朝堂院の東側にあった役所の区画になっていたのでしょう。芝の植え込みが南北に並びところがその遺構の位置を示しています。

7 大坂城石垣石と朱雀門跡

広小路公園を造成工事した時に方形の井戸のような遺構が見つかり、そこから飛鳥時代の初めごろの文字が墨で書かれた木簡が出土しました。これは「廣乎大哉宿世（広きかな大きいかな宿世）…」などと書かれた日本最古級の木簡です。また、入口に置かれている大きな石は大坂城の石垣石として運ばれてきたもので、今の大阪城の石垣にもみられる松江藩堀尾家の家紋である分銅紋の刻印があります。公園の南にある市立聴覚特別支援学校の校庭には、前期の難波宮の宮城南門（朱雀門）が見つかっています。朝堂院南門とほぼ同じ大きさの建物で、『日本書紀』には大化5年（649）に時の左大臣阿倍内麻呂の死去にあたり孝徳天皇が、この朱雀門まで来て哀悼したと記されています。

6 前期難波宮朝堂院南門跡

公園の南門の前に立つマンションの前庭では、前期の難波宮の朝堂院南門が発見されています。東西方向に柱の間が5つある5間の格式の高い門です。この門の両側には回廊が取りついて延びていることも発掘でわかっています。説明板があり、柱の位置が円柱の石で表示してあります。植栽に埋もれかかった円柱を見つけて門の大きさを確認してみてください。普段は見すごしてしまう場所ですが、遺跡は今も地下に残されているのです。

大阪歴史博物館

1 10階展示場

水都大阪らしい船の形を思わせる曲線と大阪城の石垣をイメージした外観が印象的な博物館です。古代から近代の都市大阪の歴史を展示していますが、10階フロアは難波宮のサイトミュージアム（遺跡博物館）となっています。海上交通の要衝で、大和の都を終着点とするシルクロードの玄関口であった難波の歴史を物語る数々の展示品が並んでいます。また中国・韓国との交渉から難波宮ができる歴史と、奈良時代の宮廷儀礼の映像を見ると、その後にあつと驚く仕掛けが待っています。ここで難波宮の基本情報を得てから、国史跡難波宮跡公園に出かけると、より一層、古代の難波を満喫できます。

3 5世紀の法円坂倉庫群

難波宮がつくられる200年ほど前に立っていた巨大な高床式の倉庫群です。発掘では東西方向に2列、全部で16棟の同じ大きさの倉庫が整然と並んで見つかると、そのうちの1棟が復元されました。当時の倉庫としては日本最大級の大きさで、しかも16棟以上あったことから、強大な権力をもっていた大王によってつくられた施設と考えられています。難波の港から荷揚げされたさまざまな物資がここに収蔵されていた様子が目に浮かびます。

5 大阪文化財研究所 難波宮跡資料展示室

難波宮周辺の発掘で出土した土器や瓦などを展示しています。森の宮遺跡の縄文土器、旭区森小路遺跡の弥生土器からはじまり、難波宮周辺で人が活動し始める古墳時代から難波宮の時代の資料だけではなく、豊臣秀吉による大坂城築城以後の近世の出土品もたくさん展示され、大昔から少し昔の資料まで幅広い資料が一堂に会しています。特に難波宮の建物の屋根に葺かれていた瓦がたくさんあり、瓦の重さや大きさから建物の壮さを感じ取れます。この資料展示室は博物館で展示している資料と同じ貴重な展示品を間近に見ることが出来る隠れた見学スポットといえます。
※平日10:00～17:00開室、要事前連絡(電話06-6943-6836)

2 地下遺構

博物館が立っている場所には今から1350年前の難波宮の役所がありました。今では霞が関の省庁にあたります。ここでは大型の並び倉をはじめとする倉庫の建物が見つかっているため、大蔵省と考えられています。朱鳥元年（686）に難波宮を全焼させた大火は、この大蔵省から失火したことが『日本書紀』に記されています。発掘で見つかった建物や塀の柱跡が地下に保存されていて、サイトツアー（難波宮遺跡探訪）に参加すると見学することができます。実物の柱穴を間近に見ると、建物の大きさが実感できてオススメです。

4 国史跡 難波宮跡公園

難波宮跡では、飛鳥時代(前期)と奈良時代(後期)の2時期の宮殿が重なって見つかっています。宮殿の中心部は天皇が住んでいる「内裏」とその南にある大極殿院と朝堂院という儀式を行う区画で、その部分が公園になっています。中央大通りのところから北が内裏で、大通りの下に残る遺跡を壊さないように、阪神高速はこの部分だけ地上に降りるようになっています。公園内には建物や回廊の位置に遺構標示があり、赤いタイルを使って低くなっているところが前期の建物、一段高くなっているところが後期の建物を示しています。